

令和6年7月15日

件名 岩国基地における機種更新等について（事後）

概要 このことについて、防衛省及び外務省から市長等へ説明がありましたので、下記のとおりお知らせします。

記

1 日時：令和6年7月15日（月）11：00～11：25

2 場所：岩国市役所3階 政策審議室

3. 来訪者：防衛省防衛大臣政務官	松本 尚	（まつもと ひさし）
防衛省中国四国防衛局長	西方 孝	（にしがた たかし）
外務省北米局参事官	宮本 新吾	（みやもと しんご）

4 応対者：岩国市長	福田 良彦	（ふくだ よしひこ）
岩国市議会議長	桑原 敏幸	（くわはら としゆき）
岩国市議会副議長	松川 卓司	（まつかわ たくじ）

5 説明の概要（※説明資料は別紙のとおり）

（1）松本政務官の冒頭発言

- 福田市長、桑原市議会議長を始めとする地元の皆様におかれては、日頃より、日米同盟及び自衛隊や米軍の活動について、深い御理解を賜っており、その上で岩国飛行場の運用に多大な御支援を賜り、この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。
- また、平成26年8月のKC-130空中給油機の移駐や、平成29年6月の空母艦載機の移駐の受入れを御判断いただき、その後も、F/A-18ホーネットのF-35Bへの更新といった御負担を受入れていただいております、改めて厚く御礼を申し上げます。
- 本日は、宮本外務省北米局参事官とともに、2つの更新プログラムを御説明にまいりました。

1つ目は、本年5月に横須賀を出港した空母ロナルド・レーガンのジョージ・ワシントンへの交代に併せた、艦載機部隊である「第5空母航空団の機種更新」について、2つ目は、全国的な戦闘機の更新プログラムである「在日米軍施設・区域における戦闘機に係る態勢の更新」について、それぞれ説明させていただくので、よろしく願います。

(2) 松本政務官から説明

- 第5空母航空団について、昨年4月、米海軍は、横須賀に前方展開している原子力空母「ロナルド・レーガン」が燃料交換のために米国へ移動し、代わりに原子力空母「ジョージ・ワシントン」が前方展開することとなると発表し、その旨、日本政府から岩国市にもお伝えしたところである。

今般、米側から、現在、本国に向け移動中の空母ジョージ・ワシントンを、空母艦載機の機種を更新したうえで本年後半に日本に配備するとの説明を受けている。

また、第5空母航空団に配備されている空母艦載機のうち、

- ① 4つの戦闘攻撃飛行隊のうち1個飛行隊について、F/A-18スーパーホーネットの飛行隊からF-35Cの飛行隊に、
- ② C-2輸送機の飛行隊からCMV-22オスプレイの飛行隊に、それぞれ更新するとの説明があった。

また、米側からは本機種更新に伴い、機種更新の対象となる各々の飛行隊の機数は若干増加するものの、空母艦載機全体の機数については大きな変更が生じないように調整されるとの説明を受けている。

- 次に、地元の皆様が懸念される騒音について説明させていただく。F-35Cは、日本国内に飛来したことがなく初めての機体となる。その上で、実際の航空機の騒音については、航空機の飛行状況、測定器材、気象条件等の要因に左右されるため、一概に比較することは困難であるが、米側の公表資料によると、これまでのF/A-18スーパーホーネットとの比較では、離陸時の騒音については、同程度、また、着陸時の騒音については、11デシベル程度F-35Cのほうが小さいとのデータがある。
- また、米側からは、今回のF/A-18からF-35Cへの機種更新を行った場合においても、これまでの岩国飛行場周辺の飛行経路に変更は無く、日々の運用が大きく変わるものではないとの説明を受けている。
- 第5空母航空団の機種更新と、この後説明させていただく米海兵隊の態勢の更新を含めると航空機の機数は若干減少することから、岩国飛行場の全体の騒音状況については、現在より拡がらないと見込んでいる。
- F-35Cについては、米国政府が、その安全性や信頼性を確認した上で量産している。また、F-35Cの飛行運用にあたっては、機体の安全性はもとより、安全を始めとする地域の皆様の生活に対して、最大限の配慮がなされることが重要と認識している。今後とも、F-35Cを始めとする、米軍機の運用において、より一層、これまで以上に、安全管理に万全を期すよう、米側に対して、累次の機会に求めてまいる所存である。
- 海軍のCMV-22は、海兵隊のMV-22や空軍のCV-22と機体構造及び基本性能が同一であることから、MV-22やCV-22について確認された機体の安全性は、CMV-22にも該当するものと考えている。その上で、オスプレイの安全性については、米国政府自身が開発段階で安全性・信頼性を確認していることに加え、米軍オスプレイの日本配備に先立ち、日本政府としても独自に安全性を確認している。
- 防衛省としては、オスプレイの安全性に問題はないと考えているが、オスプレイの日本国内における飛行運用に際しては、地元の皆様に十分に配慮し、最大限の安全対策をとるよう努めていくとともに、米側に対しては、引き続

- き、安全面に最大限配慮するよう求めてまいる。
- いずれにしても、今回、いわゆる第4世代機から第5世代機への更新ということで、我が国を取り巻く戦後最も厳しく複雑な安全保障環境の中、最新型の戦闘機への交代は、日米同盟の抑止力・対処力に対する米国のゆるぎないコミットメントを示すものと考えている。
 - 次に、在日米軍施設・区域における戦闘機に係る態勢の更新について説明させていただく。
 - 米側から、在日米軍のプレゼンスを維持・強化し、日米同盟の抑止力・対処力を更に強化するため、米空軍は三沢飛行場及び嘉手納飛行場に、米海兵隊は岩国飛行場に配備等している戦闘機について、今後数年をかけて態勢の更新を行う旨の説明を受けている。
 - 岩国飛行場については、常駐部隊のF-35Bを若干減少させつつ、ローテーション部隊のF/A-18をF-35Bに更新するとの説明を受けた。
 - また、そのほかの点について、米側からは
 - － 岩国飛行場において、新たな施設整備を行う計画はない
 - － 本更新に伴う、部隊の任務や飛行経路の変更はないとの説明を受けている。
 - 更新されるF-35Bの展開時期については、米側の運用に関することから詳細な情報はないが、今後、お示しできる情報が得られ次第適切に情報提供させていただきたいと思う。

(3) 宮本参事官から説明

- 福田市長、桑原市議会議長を始めとする地元の皆様には、日頃より、日米同盟及び自衛隊や米軍の活動について御理解、御支援をいただいております、外務省からも御礼申し上げます。
- その上で、先ほど松本防衛大臣政務官からも御説明があったとおり、今般、日米同盟の抑止力・対処力の更なる強化のため、米国から、岩国飛行場、三沢飛行場、嘉手納飛行場に配備している戦闘機の態勢の更新や、原子力空母の交代及びそれに伴う第5空母航空団の空母艦載機の機種更新を予定している旨説明を受けている。
- 我が国を取り巻く安全保障環境が一層厳しさを増している中、我が国の防衛のみならず、極東地域の平和と安全のために日米同盟及び在日米軍は益々重要性を増しており、本年4月の日米首脳会談においても、日米同盟の抑止力・対処力の一層の強化が急務であることを再確認したところである。
- 日頃から、米側には、米軍の安定的駐留には、地元自治体の理解・支援が重要である旨、繰り返し伝えてきている。我が国と米軍との間の信頼関係、また、それに基づく協力関係が維持されているのは、自治体の皆様方の日頃からのご尽力があってこそとの認識である。特に、福田市長のリーダーシップの下、地元と米側で良好な関係を築いてきてくださっていると承知。こうした関係が築かれているからこそ、米軍の安定的な駐留が成り立っており、改めて感謝申し上げます。
- 在日米軍の態勢については、地元の負担軽減の観点から、外務省としてもしっかりと取り組んでいきたいと考えている。引き続きの御理解と御協力を賜るようお願い申し上げます。

(4) 福田市長からの質問及び松本政務官からの回答

(福田市長)

- 「ロナルド・レーガン」から「ジョージ・ワシントン」への交代に伴う空母艦載機の機種更新については、昨年4月の米側発表以来、市としても、情報収集に努めてきたところである。
- また、第4世代機から第5世代機への更新が進められる中、米海兵隊岩国航空基地に配備される戦闘機の動向についても、常に高い関心を持って注視してきたところである。
- ただいまのご説明で、市としても、2つのプログラムによる、岩国飛行場に関連する戦闘機の機種更新等に係る正式な通知が、米側から日本側へあったということを受け止めている。
- それでは、何点かご質問をさせていただく。
- 騒音による住民生活への影響が懸念されるところである。
- 2つのプログラムによる騒音の変動をどのように見込んでいるのか。

(松本政務官)

- 空母艦載機部隊の機種更新及び米海兵隊の態勢の更新により、現時点においては、岩国飛行場における機数は若干減少するものと認識しており、また、米側からは、第5空母航空団の機種更新に伴い、平素の運用に大きな変更は生じないものの、運用に際しては、引き続きパイロットに対してしっかりと教育を行い、岩国日米協議会での確認事項をはじめとする地元に対するあらゆる努力及び配慮を引き続き維持するとの説明を受けている。よって、岩国飛行場の全体の騒音状況については、現在より拡がらないと見込んでいる。

(福田市長)

- 現在、第1種区域等の見直しに向けて、国において作業を進めているところだと承知している。
- このたびの2つのプログラムが、見直し作業へどのように影響するのか、それによって見直しがいつ頃になるのか、今後の見通しをお尋ねする。

(松本政務官)

- 岩国飛行場の第1種区域等の見直しについては、現在、調査結果等を整理中である。その上で、今般の「在日米軍施設・区域における戦闘機に係る態勢の更新」及び「第5空母航空団の機種更新」を踏まえた対応については、今後検討してまいらる。

(福田市長)

- F-35Cは、日本国内に飛来したことがないとのことのご説明であった。こうした初配備となる機体に関しては、当然、その安全性について住民の皆様から不安の声がある。
- F-35Cについて、これまで、大きなトラブルや運用上の支障などがあつたかどうかをお尋ねする。

(松本政務官)

- 防衛省として把握している限りにおいて、米側が、F-35Cについて、
 - ・米会計年度2018年、空中給油中に異物を吸い込んで損傷したこと
 - ・米会計年度2022年、空母への着艦時に墜落し、死傷者はなかったことを公表していると承知している。これ以外には、クラスA事故が発生したとは承知していない。

(福田市長)

- F-35Cは、私も実機の飛行を見たことがなく、騒音も体感していない。国として、事前に実機の飛行状況や騒音を体感できる場を設けていただく考えはあるのか。

(松本政務官)

- 地元の皆様に様々な御意見があることは真摯に受け止めている。今後、何らかの形で、F-35Cについてより理解いただく機会を設けられないか検討させていただきたいと思う。

(福田市長)

- オスプレイについては、昨年11月の事故以来、段階的に運用を再開されているとお聞きしているが、これまでも岩国基地に給油等のために飛来することもあったが、配備されたことはなく、少なからず不安を持たれる市民の方もおられる。
- このような中で、このたび配備を予定されているCMV-22の安全性はどのように確保されているのか。

(松本政務官)

- 昨年の米軍オスプレイの墜落事故を受けた日米間の確認作業の中では、前例のないレベルで技術情報に関するやりとりがなされており、事故原因が特定され、当該原因に対応した各種安全対策を講じることにより、同種の不具合による事故を予防・対処することができると考えている。
- 防衛省としては、オスプレイの安全性に問題はないと考えているが、飛行の安全確保が最優先であることは、日米間のあらゆるレベルで確認している。オスプレイの日本国内における飛行運用に際しては、地元の皆様に十分に配慮し、最大限の安全対策をとるよう努めていくとともに、米側に対しては、引き続き、安全面に最大限配慮するよう求めてまいる。

(5) 桑原議長からの質問及び松本政務官からの回答

(桑原議長)

- 沖縄において、米兵による事件が多発しており、不安を感じる市民もおられる。
- 今回新たに、岩国基地へ配属となる米軍人員も多いと思うが、岩国市は基地との共存を掲げており、市長が定期的に基地の中に入って、隊員に対するセーフティブリーフィング等を行うなど、事件・事故を防止するための独自の取り組みを行っている。

次頁に続きます

- 沖縄のようなことがあれば、基地に対する批判的な声が上がってくることも考えられるが、国としてはどのような指導徹底をされるのか。

(松本政務官)

- 米軍による事件・事故は、あってはならないものであり、防衛省としては、累次の機会を捉え、米側に対し、隊員教育、綱紀粛正や再発防止の徹底を図るよう申し入れてきているところである。
- 在日米軍の安定的な駐留には、地元の御理解と御協力が大前提であり、引き続き日米で協力して事件・事故の防止に取り組んでまいります。

(桑原議長)

- 後日、岩国市議会として、全員協議会で詳細についてご説明いただく場を設けたいと考えているので、対応方よろしく願います。

(松本政務官)

- 承知した。詳細を連絡いただければ、しっかり対応したい。

(6) 松川副議長からの質問及び松本政務官からの回答

(松川副議長)

- F-35Cは配備されれば国内初配備、また、CMVオスプレイについても、岩国ではこれまで配備されたことがない。
- このような状況の中、騒音による影響のみならず、市民の安全面による不安は大きいと予想される。
- こうした岩国市民の不安・負担に対する、国からの財政措置について、国の考えをお尋ねする。

(松本政務官)

- 防衛省としても、岩国飛行場の周辺の皆様が安全に、安心して暮らせる環境を確保していくことは当然大事なことであり、安心・安全や地域振興に関する地元からの御要望については、今後とも、岩国市と緊密に調整し、誠意をもって対応してまいりたいと思う。

(7) 福田市長の要請及び松本政務官の回答

(福田市長)

- 本日説明いただいた内容については、質問に対する回答も含め、おおむね理解した。
- 本市は、米軍基地が所在する自治体として、これまで国の安全保障政策を尊重し、基地の安定的運用には協力してきたところであるが、その運用にあたっては、住民が安心して暮らせる環境が確保されることが、重要であると考えている。
- 本日の説明を受けて、騒音の影響や機体の安全性等について疑問点を整理し、近日、県と共に文書により照会させていただきたいと考えている。
- 市としては、その回答も踏まえて、県とも協議し、議会の意見も伺いながら、このたびの2つのプログラムに係る市の方針について総合的に判断して

まいりたいと考えているので、よろしく願います。

(松本政務官)

- 米軍の駐留に伴う御負担を実際に引き受けていただいている地元におかれては、様々な御意見や思いがあることを十分認識している。
- 地元の負担軽減は、地域の実情に応じて、米軍の施設・区域を抱える各地域についてそれぞれ配慮がなされるべきものとする。
- 政府として、国の安全保障のために適切かつ必要な施策を進めるに当たっては、地元の皆様の御要望・御意見に耳を傾けながら、安心・安全対策や地域振興策等についても全力で取り組んでいきたいと思うので、引き続き、御理解と御協力を賜りますよう、よろしく願います。

6 市長コメント

本日は、「第5空母航空団の機種更新」及び「在日米軍施設・区域における戦闘機に係る態勢の更新」について、上記のとおり説明があった。

説明を受け、騒音の影響や機体の安全性等について疑問点を整理し、県とともに文書等により照会し、確認する必要があると考えている。

そのうえで、議会の意見も伺いながら、市の方針について総合的に判断してまいりたいと考えている。

担当

岩国市総合政策部基地政策課

TEL0827-29-5024 FAX0827-21-3572

岩国市議会事務局庶務課

TEL0827-29-5190 FAX0827-21-1001